

令和2年度 データサイエンス教育担当教員会議 自己点検評価

目的

本会議の目的は、データサイエンス教育を全学的に普及させ、1名でも多くの学生にデータサイエンス教育を受けて卒業してもらうことにある。

構成メンバー

大浦洋子教授

橋爪善光准教授

荒平高章講師

取り組み内容

今年度は5月12日から毎週火曜日に会議を実施した。前期期間中は主に遠隔授業におけるデータサイエンス教育方法について議論した。後期期間中はさらにデータサイエンス教育の周知方法についても議論した。また、数理・データサイエンス教育コンソーシアムのワークショップに参加し、本学におけるデータサイエンス教育の取り組みについて紹介した。

自己評価

昨年度福岡農業高校との高大連携協定を結び、今年度は福岡農業高校と交流しながら実際の農作物育成データや加工品販売データを用いてより実践的なデータサイエンス教育に取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染を防ぐ為にそのような実践教育を行うことが出来なかった。また、オリエンテーションも遠隔方式で行われた関係で、データサイエンス教育に関する周知は、コミュニケーションと自己発見の授業や情報学入門の授業内でのアナウンス及び1年生へのコースガイダンスの際に行った。

また、来年度に向けて3つの新規取り組みを行う事が決定した。1つ目は本会議を正式組織として委員会を構成する事。2つ目にデータサイエンス教育修了者への修了書の授与などの体制づくり。3つ目にその教育プログラム修了書についての学生への周知をオリエンテーションで行う事。以上3つの取り組みを実施する事が決定した為、今後のデータサイエンス教育が学内にさらに普及することが期待できる。

改善・向上方策（将来計画）

今年度決定した令和3年4月から本会議を正式な組織として、データサイエンス教育修了者への修了書授与などすることで学生の興味を引く取り組みを行っていく。前期オリエンテーションから修了書についてのアナウンスを行い、データサイエンス教育を普及させていく。